

## 生物影響調査について

## 1. 平成16年度の調査結果について

- (1) 調査名 魚類のダイオキシン類調査
- (2) 目的 現場下流で釣りの対象とされている魚を採捕し、その食品としての安全性を確認する。
- (3) 調査魚種 イワナ  
【採捕地点】現場下流の熊原川の落合橋付近（杉倉川との合流部付近）  
【採捕時期】平成16年9月  
【分析項目】ダイオキシン類
- (4) 調査結果 今回採捕したイワナの分析結果は、別添（P2）「水生生物のダイオキシン類分析結果報告」のとおりであり、公表されている過去の全国的なイワナのダイオキシン類濃度分析結果と比較しても極低濃度でした。
- (5) 評価結果 数値あるいは他県のデータと比較して問題ない。

## 2. 平成17年度の調査計画について

## (1) 水生生物調査について

- ①調査内容 現場下流域の水生生物（底生動物）を採集・同定し、その生息状況を長期的に調査し、環境影響評価を行うためのデータの蓄積を図る。
- ②調査時期 平成17年4月
- ③調査対象 トビゲラなどの水生昆虫を主体とする底生動物
- ④調査地点 5地点（杉倉川3地点、熊原川2地点）  
※前回の委員会の意見を踏まえ2地点追加  
※決定した調査地点については別添（P3）「水生生物調査地点図」のとおり
- ⑤主な意見 バックグラウンド値を押さえるため、調査は必ず浸出水処理施設の処理水を流す前に行うこと

## (2) 魚類の飼育について

- ①飼育開始 平成17年5月（浸出水処理施設稼働時）を予定
- ②飼育場所 浸出水処理施設建屋内に水槽を設置し、飼育状況を公開
- ③飼育魚種 実際に浸出水処理施設の下流域に生息する魚種であるウグイを選択
- ④主な意見 ウグイ以外にメダカも飼育してはどうか

## (3) モデル河川における溪流魚の系群保全実証試験について

農林水産部で、平成16年度～17年度の2カ年で生息状況調査やイワナの種苗放流を行う計画でしたが、関係漁協との調整がつかなかったことから事業を取りやめることとし、委員会の了承を得た。

## 水生生物のダイオキシン類分析結果報告

表 1 に試料中の Total (PCDDs+PCDFs), Total(Co-PCBs), Total (PCDDs+PCDFs+Co-PCBs) の TEQ の一覧を示す。なお、試料については可食部のみを 20.4g 分析に供した。

表 2 には公表されているイワナのダイオキシン類濃度を 2 例、また参考としてニジマスのダイオキシン類濃度を 6 例（内 3 例は養殖）示す。これらの濃度は実測濃度が N.D. の場合 0（ゼロ）として計算している。今回分析を行ったイワナのダイオキシン類濃度は 0.28 pg-TEQ/g（実測濃度が N.D. の場合 0（ゼロ）として計算）であり、過去のイワナの調査結果と比較しても極低濃度であり、養殖のニジマスと同レベルの結果であった。

表 3 に詳細なダイオキシン類の測定結果を示す。

表 1. 試料における TEQ 一覧.

(単位: pg-TEQ/g)

試料名	TEQ		
	Total (PCDDs+PCDFs)	Total Co-PCBs	Total (PCDDs+PCDFs+Co-PCBs)
イワナ	0.090 (0.17)	0.19 (0.19)	0.28 (0.35)

[注]カッコ内の数値は定量下限未満の化合物について、マニュアルにおける定量下限の 1/2 の値を用いて算出した TEQ である。

表 2 公表されている魚類中のダイオキシン類濃度一覧.

調査名	都道府県	調査地点	生物名	Total TEQ (pg-TEQ/g)
平成 10 年度水生生物中のダイオキシン類濃度分析結果 (環境庁)	山梨県	宮川	ニジマス	5.7
平成 11 年度水生生物中のダイオキシン類濃度分析結果 (環境庁)	群馬県	赤城大沼南部湖岸	イワナ	5.3
	埼玉県	名栗湖湖心	イワナ	3.7
	山梨県	相模川富士見橋	ニジマス	4.0
	長野県	姫川宮本橋	ニジマス	1.7
平成 15 年度魚介中のダイオキシン類実態調査 (水産庁)	-	東海地方	ニジマス (養殖)	0.32
	-	中部地方	ニジマス (養殖)	0.14
	-	東海地方	ニジマス (養殖)	0.30

# 水生生物調査地点図

